

【専門科目領域/専門基礎科目群/人間の構造や機能と疾病の成り立ち】

科目名	ナンバリング	区分(必修・選択)	単位数	履修年次	開講学期等
薬理学		必修	1	1	後期
担当教員	研究室	電子メールID	オフィスアワー		
稲垣 昌博	教員控室	kango	Teams で対応		
授業の目的・概要	薬物治療を理解するため、薬物の体内動態を考慮して薬物と生体の相互作用を学び、薬物の主作用・副作用を理解する。更に、薬物の安全性や取扱いについても理解を深める。一部の内容は課題学習を通して理解し、解答と解説によりフィードバックを行うとともに、Microsoft Teamsにより質問を受けるとともに、必要に応じてディスカッションを学生全員で行う。				
授業形式・方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面授業 <input type="checkbox"/> 遠隔授業(双方向型) <input type="checkbox"/> 遠隔授業(自主学習) <input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技 <input type="checkbox"/> PBL <input type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> その他 () <input type="checkbox"/> 反転授業 <input type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> ブレインストーミング <input checked="" type="checkbox"/> ディスカッション・ディベート <input type="checkbox"/> 実習・フィールドワーク				
学習上の助言	病態や薬効を自分自身でイメージして自分の言葉で表現する習慣を身に付けてほしい。暗記に頼るのではなく、理解(納得)して記憶に留めるようにトレーニングすること。				
教科書	系統看護学講座「薬理学」疾病の成り立ちと回復と促進3 /著:吉岡充弘 他 /医学書院				
参考書	人体の構造と機能(第4版) /著:内田さえ 他 /医歯薬出版(1年次に使用したもの)				
外部教材	特になし				
学生が達成すべき行動目標			関連卒業認定・学位授与方針		
①	薬物の代謝について理解し説明できる。		NS(1)(4)		
②	薬物の作用と作用メカニズムを理解し説明できる。		NS(1)(4)		
③	薬物の安全性や取扱いについて理解し説明できる。		NS(1)(4)		
授 業 計 画					
回	学習内容等	授業方法	学習課題・学習時間(時間)		
1	薬理学総論①:薬物の作用機序,相互作用,副作用	講義	課題:演習問題(授業内容の確認)①②と一緒に提示	1	
2	薬理学総論②:薬物動態(ADME),用量	講義	課題:講義終了時に演習問題(授業内容の確認)①②と一緒に提示し、回答・提出	1	
3	抗感染症薬③:抗生剤、抗菌薬、抗ウイルス薬	講義	課題:演習問題(授業内容の確認)③④と一緒に提示	1	
4	抗がん薬④:各種抗がん剤,分子標的薬	講義	課題:講義終了時に演習問題(授業内容の確認)③④と一緒に提示し、回答・提出	1	
5	免疫治療薬⑤:免疫抑制薬・増強薬、予防接種	講義	課題:演習問題(授業内容の確認)⑤⑥と一緒に提示	1	
6	抗アレルギー・抗炎症薬⑥:抗ヒスタミン、ステロイド	講義	課題:講義終了時に演習問題(授業内容の確認)⑤⑥と一緒に提示し、回答・提出	1	
7	末梢神経⑦:梢神経系作用薬,筋弛緩薬,局所麻酔薬	講義	課題:演習問題(授業内容の確認)⑦⑧と一緒に提示	1	
8	中枢神経⑧:全身麻酔薬、催眠薬、抗不安薬	講義	課題:講義終了時に演習問題(授業内容の確認)⑦⑧と一緒に提示し、回答・提出	1	
9	中枢神経⑨:抗うつ薬、精神病薬、抗パーキンソン病薬、抗てんかん薬、麻薬性鎮痛薬	講義	課題:演習問題(授業内容の確認)⑨⑩と一緒に提示	1	
10	循環器系作用薬⑩:降圧薬,狭心症治療薬,強心薬、抗不整脈薬	講義	課題:講義終了時に演習問題(授業内容の確認)⑨⑩と一緒に提示し、回答・提出	1	
11	循環器系作用薬⑪:利尿薬,血液凝固・線溶作用薬	講義	課題:演習問題(授業内容の確認)⑪⑫と一緒に提示	1	
12	呼吸器・消化器・生殖器・泌尿器⑬に作用する薬物	講義	課題:講義終了時に演習問題(授業内容の確認)⑪⑫と一緒に提示し、回答・提出	1	
13	代謝性作用薬⑭:ホルモン,ビタミン	講義	課題:演習問題(授業内容の確認)⑬⑭と一緒に提示	1	

【専門科目領域/専門基礎科目群/人間の構造や機能と疾病の成り立ち】

14	漢方薬:漢方医学と有用性⑮	講義	課題:講義終了時に演習問題(授業内容の確認)⑬⑭と一緒に提示し、回答・提出	1			
15	総復習・国試対策	講義	国試形式の問題をあらかじめ配布予定。一部を解説する。	1			
試	定期試験 達成度評価・評価のポイントを参照						
達成度評価							
総合評価割合(%)		試験	レポート	成果発表	ポートフォリオ	その他	合計
		79	21	0	0	0	100
総合力指標	知識・技術力	50	21	0	0	0	71
	思考・推論・創造する力	29	0	0	0	0	29
	協調性・リーダーシップ	0	0	0	0	0	0
	発表・表現伝達する力	0	0	0	0	0	0
	コミュニケーション力	0	0	0	0	0	0
	取組みの姿勢・意欲	0	0	0	0	0	0
	問題を発見・解決する力	0	0	0	0	0	0
評価のポイント					フィードバックの方法		
評価方法	行動目標	評価の実施方法及び注意点					
試験	①	✓	授業の全範囲から出題する。解答は記述式を含み、解を得るための途中経過も評価する。			期末試験の解答と解説を配布し、フィードバックとする。	
	②	✓					
	③	✓					
レポート	①	✓	偶数回の授業の終了約10~15分前に前回に提示した演習問題(レポート課題)に答えて、その次の授業開始時に提出のこと。総括評価に関連する演習問題(レポート課題)は課題①~⑭の講義内容を2回分ずつまとめたもので7回とする。			解答は講義中に示していく。選択解答はまとめて配布する。	
	②	✓					
	③	✓					
成果発表	①						
	②						
	③						
ポートフォリオ	①						
	②						
	③						
その他	①						
	②						
	③						
備 考							
他担当教員	なし						
教員の実務経験	略歴:昭和大学薬学部大学院薬学研究所卒 博士(医学)、薬剤師、臨床検査技師 昭和大学で約30年以上講義・研究を行っている。 現在:昭和大学医学部薬理学講座医科薬理部門 客員教授						
実践的授業の内容							

【専門科目領域/専門基礎科目群/人間の構造や機能と疾病の成り立ち】

そ の 他	<ul style="list-style-type: none">・苦手な領域でも、自分でイメージできるようトレーニングすること。そのイメージを自分の言葉で表現して、記憶に残るように努力すること。・今回はすべて対面で授業を行う予定である。授業終了約 10～15 分前に演習問題（レポート課題）を提示して、その日の授業のまとめを行う予定である。・今後の新型コロナウイルス感染症の状況など社会情勢によっては再度シラバスの変更がある。
-------------	---